

学校教育目標	「えがお ふれあい たかめあい きらり かがやく あざみ野」 【知】学び続ける子ども…夢やめあてをもって、主体的に考え学び続ける子を育てます。 【徳】認め合える子…自分を大切に、自分の思いを伝えたり、相手の思いを心から受け止めたりして、認め合える子を育てます。 【体】たくましく生きる子…自分や相手の命や健康を大切に、心身ともにたくましく生きる子を育てます。 【公】協働する子…自分のまちを愛し、他者と協働して社会を高めようとする子を育てます。 【開】チャレンジする子…グローバルな視野を持ち、新たな価値に向かってチャレンジする子を育てます。			
	創立 42 周年	学校長 宇都宮 桂	副校長 上田 伸彦	2 学期制 一般学級：18 個別支援学級：4
学校概要	児童生徒数： 580 人 主な関係校： あざみ野中学校・あざみ野第一小学校・黒須田小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	あざみ野中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的な取組
言語能力 自分づくりに関する力	あざみ野中 あざみ野第一小 あざみ野第二小 黒須田小 (すすき野中・嶮 山小・荇子田小)	自分らしく、共に生き、未来を切り拓く子  小中学校間で学習指導や児童生徒指導の円滑な接続を重視するとともに、児童・生徒間の交流や教職員の交流を積極的に図ることによって、子どもたちに必要な資質・能力を育て、「9年間で育てる子ども像」の具現化を目指す。具体的には、小中授業研究会、小学生の中学校授業参観・部活動見学・生徒会オリエンテーション等を行う。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の思いを伝えたり、相手の思いを心から受け止めたりして、自分も相手も大切に認め合える子を育てます。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目は、自分の思いを伝え、対話的に学びに楽しさを感じる授業を推進します。</li> <li>・2年目は、相手の考えや気持ちを理解して、伝えあう力を育てます。</li> <li>・3年目は、自分も相手も大切に、共に生きることを深めることができるようになります。</li> </ul> </li> <li>○学校やまちを愛し、他者と協働しながら行動できる子を育てます。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を通して自己有用感や自己肯定感を高めることができるようになります。</li> </ul> </li> </ul>
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	学習指導	①午前5時間授業を推進し、集中力の高い午前中に1コマ40分の5時間授業を実施し、生活や学習リズムの確立、授業時数の確保、学習内容に則した弾力的な授業時間の設定や指導計画の工夫を行い、学力の定着を図る。②1～6年生全ての学年で教科分担任制を推進し、より専門的な授業展開による学力向上や、複数の教員で子どもを見守り子どもたちの心の安定をめざす。③算数は学習内容が難しく、学習の定着に開きが出てくるので、3年生以上の算数ではコース別学習を実施する。
担当	授業研究部	
徳	人権教育	①1・6年、2・4年、3・5年のペア学年による「なかよし交流タイム」を設定し、上級生に対する尊敬の気持ちや下級生に対するいたわりの気持ちを育てる。【交流タイム年9回実施】 ②組別や時間を短縮した「6年生を送る会」や2学年合同による「ミュージックフェスタ」などを通して、異学年との交流を図る。 ③「学年行事」「長縄跳び集会」「地域の人たちとの体験活動」等を設定し、「人の役に立った」「人から感謝された」「人から認められた」という自己有用感や「できる自分」「できなくても大丈夫」「ありのままの自分が好き」というしなやかに生きる自己肯定感を育成する。
担当	道徳部・人権委員会	
体	健康教育	①家庭科の授業などの時間を利用して、栄養士と連携しながら、食育に関する授業を実施し、食育の推進を図り、食に関わる資質・能力を育成する。 ②年間を通じて、全校で長縄跳びに取り組み、体力の向上を図ると共に、跳べた回数や記録の伸び率をもとに子どもたちの意欲を高め、運動に親しむ態度を育む。【長縄跳び集会年3回】 ③学校保健委員会や保健委員会の活動等を通して、健康で丈夫な体づくりを意識して生活しようとする態度を育む。
担当	体育部	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①生活科・総合的な学習の時間を中心に、体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者と関わるよさを体得し、自ら考え、判断し、表現する力を育てていく。 ②学年に応じて、地域や企業が関わる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義について考えられるようにする。 ③1～6年生全ての学年で自分づくりパスポートやマイプラン作成を導入することにより、学習や自分の役割等に見通しをもって取り組んだり、学習状況や生活を振り返ったりする機会を設け、主体的に学びに向かう力を育てていく。
担当	授業研究部・総合	
いじめへの対応		①定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、個々のいじめやいじめの疑いの事案について、現状と対応の進捗状況を確認し、今後の対応策等を丁寧に考え、いじめ再発防止に努める。【月1回いじめ防止対策委員会実施】 ②いじめ防止研修を実施して、全教職員がいじめを認知する意識を高くするとともに、児童アンケートによる些細な変化を見逃さない体制づくりを行って、いじめの未然防止に努める。【いじめ防止研修年2回実施 YPアンケート2回実施・いじめ防止アンケート3回実施※5月実施は記名式で行う】 ③ケース会議を実施し、関わる学年全員で情報を共有できるようにする。また、情報を整理し、いつ・だれが・どのような関わりを行うのかを明確にし、複数で対応できるようにする。
担当	児童指導・人権委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①5年次以下の教職員を中心にキャリアアップ研を組織し、ミドルリーダーが牽引役となって自主研修会を実施していく。【月1回キャリアアップ研実施】 ②学年研【週1回】で意図的・計画的に主任が経験の少ない教員に指導・支援をする。企画会【月1回】で課題を共有し、学年経営の推進ができるミドルリーダーの育成をする。教務会【月1回】で学校全体を視野に入れた運営ができるリーダーを育成する。 ③グループウェアを活用して情報の共有化を効率的に行う。またタイムマネジメントを行い、定時退勤や働きやすい職場づくりを目指す。【会議時間の短縮化・計画年休・職員レク活動】
担当	教務部・キャリアアップ研	
地域学校 協働活動		①学校運営協議会・地域学校協議本部を活用し、「ヒト・モノ・コト」について地域・保護者と連携・協力しながら、質の高い学びを実現させ、自己の生き方に生かすことができるようにする。【学校運営協議会年4回開催】 ②学校・地域コーディネーターを通して教育活動に必要なボランティアと繋がり学習に役立てる。また、人との関わりで心の成長が見られるので、生活科・総合的な学習の時間を中心に人と繋がり、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。【生活科・総合的な学習の時間や社会科等で活用】
担当	学校長(教務部)	
児童指導		①気になる子、トラブルなど、どんな小さな事例でも、児童指導の情報を全教職員でスムーズに共有する体制を維持し、全校チームとしての指導をさらに強化し、だれもが安心して通える学校づくりをめざす。【低中高ブロック研毎週実施⇒専任・管理職との共有、毎月職員会議で情報共有、年2回全教職員による校内ルールの確認】 ②学校生活向上委員会の児童が中心となって、全校挨拶運動を継続実施し、挨拶は人と人の心を繋ぐ/絆として、人と豊かに関わる子の育成をめざす。【学校生活向上委員会による挨拶運動を実施】 ③チーム学年経営や教科分担任制を行い、児童を複数の教師が見守ることで、より多面的に児童をとらえ、組織的・協働的に指導・支援をしていき、子どもたちが安心して安全に学校生活を送ることができるようになる。
担当	児童指導・人権委員会	
特別支援教育		①個別の教育支援計画を活用し、6年間を見通した支援を行う。一人ひとりの特性に応じて、別室や教室内での支援を意図的・計画的に実施する。 ②コンサルテーションや児童理解研修会を年間計画に位置付けて、各関係機関と連携しながらさらなる児童理解と支援に取り組む。【コンサルテーションを前期・後期で年2回実施、特別支援教育研修1回、児童指導・児童理解研修1回実施】
担当	児童指導・人権委員会	
情報教育		①児童が学習でICT機器を活用する場面を学年プランに位置づけ実施する中で、個々のニーズや個別最適な学びにつながる取組を実現させていく。 ②どのクラスでも効果的にICT機器が活用されるように情報共有の場や職員研修の機会を年間計画に位置づけ、職員全体のICT機器活用指導力を高める。【ICT研修を年度初めと夏季休業期間中の年2回実施、月1回情報評価委員会実施】 ③情報モラル教育について、道徳科、特別活動、児童指導等と連携させながら学びを充実させ、情報社会で適正な活動ができる子の育成をめざす。【ICTスタンダードの周知・徹底】
担当	情報教育部・情報評価委員会	